

# かわとはきものギャラリー

## ③日本のはきもの 1.

神奈川県企業博物館連絡会顧問 福原 一郎

日本のはきものは下駄・草履ぞうりなどにみられる鼻緒式で開放性のものが多く用いられている。気候・風土からも便利で庶民の生活に必要なものであり、はじめは田下駄のように労働の道具でもあった。

歩行に多く用いられたのは草鞋わらじで、足に紐を巻きつける機能的なものであり、消耗すると新しいものに履きかえられた。また

寒い地方では藁わらでつくられた雪沓が履かれた。

下駄や草履は、和服の生活に合わせて足袋たびで履いたり素足で履いたりした。庭下駄や茶会用のものなどレジャーに用いたり、また、職業・芸能用に特別のものがつくられるなど、日本の「はきもの文化」として大切なものである。

写真は東京都立皮革技術センター台東支所「かわとはきものギャラリー」収蔵展示資料より

- 1 あしなか 足半ぞうり
- 2 わらじ 草鞋
- 3 わらくつ 爪掛け藁沓
- 4 かんじき
- 5 子供用雪沓
- 6 雪沓
- 7 茶会ぞうり
- 8 ぞうり 草履
- 9 女児用ぽっくり
- 10 おこぼ
- 11 おいらん下駄
- 12 竹下駄
- 13 あしだ 足駄
- 14 浜下駄
- 15 下駄作りの道具



